【日本集中治療医学会雑誌賞】

日本集中治療医学会雑誌賞の受賞論文の概要

大野 直紀

地方独立行政法人りんくう総合医療センターリハビリテーション科
(〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2-23)

この度、2019年度の日本集中治療医学会雑誌賞を受賞することができ大変光栄に存じます。選考委員の関係者ならびにご推薦頂きました皆様には、深く御礼申し上げます。

本研究は「人工呼吸管理を要する鈍的外傷患者における離床遅延因子」という題名で掲載して頂きました。本稿では、研究概要をご説明致します。近年、集中治療領域における早期リハビリテーション(early mobilization)の効果や安全性についてのエビデンスが示され、本邦でも多くの施設で早期リハビリテーションを導入していると思われます。しかしながら、交通事故や転倒・転落などの鈍的外傷患者において、臨床的には早期離床が難渋する症例に遭遇します。その際、ベッド上での関節可動域練習や自動運動などのリハビリテーションは可能ですが、早期離床を達成することはできません。そこで、どのような鈍的外傷患者で離床が遅延しているのか、すなわち離床遅延因子を解明することを研究目的としました。本研究では、人工呼吸管理を要する鈍的外傷患者を対象とした単施設での後ろ向き観察研究で、離床の第一段階である

ベッドでの端坐位達成をアウトカムにしました。結果として、性別、生理学的重症度であるrevised trauma score (RTS)、解剖学的重症度であるinjury severity score (ISS)、そして損傷部位としてはabbreviated injury scale (AIS) 3点以上の脊椎・骨盤・四肢外傷が離床の遅延因子であることが明らかになりました。

この研究結果をふまえ、当施設では離床遅延のハイリスク患者を予測し、早期から神経筋電気刺激(neuromuscular electrical stimulation)やベッド機能を活用した体位変換などの離床の代替手段の導入、さらには観血的固定手術を早めるための外傷機能外科チームの形成など、総合的な外傷の治療戦略の見直しを行いました。今後は、これらの当院の取り組みについての効果を明らかにしていきたいと考えております。

最後に、本研究に多大なるご尽力とご協力を頂いた共著者の皆様、研究デザインおよび統計解析の選定にご助言を頂いた千葉大学医学部附属病院救急科・集中治療部の中田孝明教授に、心より感謝申し上げます。

本原稿の対象論文は、以下の雑誌に掲載されています。
大野直紀, 石井健太, 泉野浩生, 福岡 博, 中尾彰太, 松岡哲也. 人工呼吸管理を要する鈍的外傷患者における離床遅延因子. 日集中医誌 2019;26:13-8.

Overview of the Japanese Society of Intensive Care Medicine Magazine Award

Naoki Ohno

Rehabilitation Center, Rinku General Medical Center (2-23 Rinku Ourai Kita, Izumisano, Osaka 598-8577, Japan)

J Jpn Soc Intensive Care Med 2020;27:175.